

プロの高い要求に応える「EOS R システム」初のフラッグシップ機“EOS R1”を発売  
新開発のエンジンシステムにより高性能 AF・高画質と高信頼性を両立

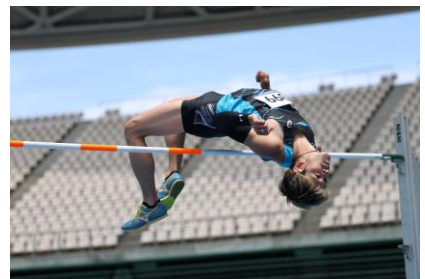
キヤノンは、新開発の映像エンジンシステム「Accelerated Capture」を搭載した「EOS R システム」初のフラッグシップモデル“EOS R1”を 2024 年 11 月に発売します。



EOS R1  
(RF24-70mm F2.8 L IS USM 装着時)



バレーボールのネット越しの撮影にも有効なクロス AF



決定的瞬間を捉える高速連写

“EOS R1”は、「EOS-1D X Mark III」(2020 年 2 月発売) の高信頼性・高耐久性を継承しながら、高い撮影性能を兼ね備えたフルサイズミラーレスカメラです。映像エンジン「DIGIC X」に加え、新開発の映像エンジン「DIGIC Accelerator」と裏面照射積層 CMOS センサーの組み合わせによる新たな映像エンジンシステム「Accelerated Capture」やディープラーニング技術の活用により、フラッグシップ機として求められる静止画・動画性能を実現し、プロの高いニーズに応えます。

■ 狙った被写体を素早く捉え粘り強く追尾し続ける高精度 AF

デュアルピクセル CMOS AF 初となるクロス AF<sup>※1</sup> に対応することで、被写体の模様や障害物の影響を抑えて被写体を捉えることができ、安定した撮影を実現します。また、新開発の映像エンジンシステム「Accelerated Capture」とディープラーニング技術の融合による、被写体を追い続けるための強化されたトラッキング性能、サッカーのシュートなどの特定のアクションを認識し素早く AF フレームを合わせる「アクション優先<sup>※2</sup>」機能、「EOS R3」(2021 年 11 月発売) から進化した視線入力 AF<sup>※3</sup> などを活用することで、素早くフォーカスを合わせ、狙った被写体を粘り強く追尾することができます。

■ 決定的瞬間を逃さない高速連写や快適な撮影を実現する新開発の電子ビューファインダー

電子シャッター時、最高約 40 コマ/秒<sup>※4</sup> を達成しながら、「EOS-1D X Mark III」のメカシャッターと同等レベルにローリングシャッター歪みを低減しています。また、「プリ連続撮影<sup>※5</sup>」機能を搭載することで、シャッターボタンを押したタイミングから最大約 20 コマ分遡って連続撮影することが可能です。これらの機能に加え、快適な撮影をアシストする EOS シリーズ最多となる約 944 万ドット、ファインダー倍率約 0.9 倍、EOS シリーズ最高輝度を達成した新開発の電子ビューファインダーを搭載することで、さまざまな撮影環境で、決定的瞬間を捉えることができます。

■ 新開発のフルサイズ裏面照射積層 CMOS センサーや「カメラ内アップスケーリング<sup>※6</sup>」機能などによる高画質の実現

新開発の有効画素数最大約 2420 万画素<sup>※7</sup> のフルサイズ裏面照射積層 CMOS センサーを採用し、常用 ISO 感度 100~102400 (静止画撮影時) をカバーすることで、明るい屋外でのスポーツ撮影から夜間の報道撮影までさまざまなシーンでの高画質な撮影が可能です。また、「カメラ内アップスケーリング」機能では、アプリケーションなどを介することなく、最大約 9600 万画素の画像をカメラ内で生成し、トリミングをしたい場合などでも活用できます。

※1. 静止画のみ。電子先幕/メカシャッター時の連続撮影中は H/L モードのみ。プリ AF 時、フォーカスガイド時は除く。  
 ※2. 静止画、電子シャッター時のみ。画面内で人の大きさが小さい場合や、被写体の一部が隠れていたり、被写体同士が密集している場合には認識精度が落ちる場合があります。対象スポーツはサッカー、バスケットボール、バレーボールです。対象アクションについては公式 WEB サイトをご確認ください。  
 ※3. 事前に「キャリブレーション」が必要です。サングラスやミラーサングラス、ハードコンタクトレンズ、遠近両用メガネを使用した場合や、目の状態(目が細い/まつ毛が長い/まぶたが厚い)などの個人差、使用環境などにより、視線入力 AF が使用できないことがあります。  
 ※4. 連続撮影速度の条件およびサーボ AF 時に最高連続撮影速度に対応するレンズについては、キヤノン公式 WEB サイトをご確認ください。  
 ※5. シャッタースピードが 0.5 秒より遅いときは不可。AEB 撮影、ストロボ撮影、フリッカーレス撮影、フォーカスブラケット撮影、多重露出撮影不可。  
 ※6. 画像処理に時間がかかることがあります。動画撮影中に記録した静止画は、カメラ内アップスケーリング不可。  
 ※7. 使用するレンズまたは画像処理によって有効画素が減少することがあります。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS R1	オープン価格	2024 年 11 月

- 
- 一般の方のお問合せ先                      : キヤノンお客様センター                      0570-08-0002 (直通)

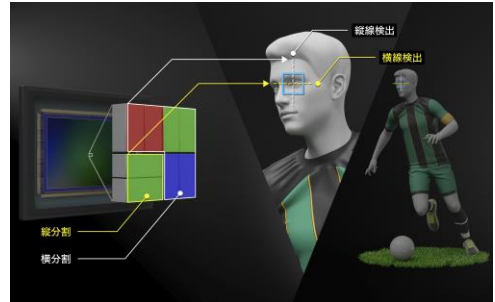
## 〈“EOS R1”の主な特長〉

### 1) 狙った被写体を素早く捉え粘り強く追尾し続ける高精度 AF

- トラッキング中最大約 100%の測距可能エリアにおいてデュアルピクセル CMOS AF 初となるクロス AF に対応。被写体の模様や障害物の影響を抑えて、正確に被写体を捉え続けることが可能。
- 高速解析・高速撮影を実現する新エンジンシステム「Accelerated Capture」とディープラーニング技術の融合による新たな AF システム「Dual Pixel Intelligent AF」により、優れたトラッキング性能を実現。
- 被写体が交錯する場面が多いチームスポーツ撮影などでも選手を粘り強く撮影し続けるため、トラッキング性能を強化。人物が小さい場合でも検知可能な「上半身検知」や、障害物が被写体の前を横切るシーンなどでも被写体の頭部とその前に重なる障害物を見分ける「頭部領域推定による障害物回避」により精度の高いトラッキングが可能。
- サッカーのシュートなど特定の動作の被写体をカメラが自動で認識し、素早く AF フレームを合わせる「アクション優先」機能を搭載。
- あらかじめ狙いたい被写体を登録し、優先的に追尾し続ける「登録人物優先<sup>※1</sup>」機能では、「EOS R3」と比較し、顔が斜め<sup>※2</sup>に向いた際の検出性能が向上。

※1. 顔の明るさ、大きさ、表情、動き、顔の一部が遮られるなどの要因により性能が低下する場合があります。

※2. 両目、鼻、口が見える範囲。



クロス AF の仕組み（図はイメージです。）

### 2) 決定的瞬間を逃さない高速連写や快適な撮影を実現する新開発の電子ビューファインダー

- 電子シャッター時、AF/AE 追従しながら最高約 40 コマ/秒を実現し、30 コマ/秒、20 コマ/秒などの中間のコマ速の設定が可能。
- 電子シャッター時のローリングシャッター歪みを、「EOS-1D X Mark III」のメカシャッター同等レベルに低減。
- EOS シリーズ最多となる約 944 万ドット、ファインダー倍率約 0.9 倍、EOS シリーズ最高輝度を達成した新開発の電子ビューファインダーを搭載。
- ファインダーをのぞく瞳の動きで AF 操作が行うことができる視線入力 AF では、検出フレームレートを「EOS R3」比約 2 倍とすることでレスポンスを向上し、光学系も新規設計とすることで目の位置がずれた場合や眼鏡装着時の検出安定性も向上。
- シャッターボタンを押したタイミングより最大約 20 コマ分遡って撮影することができる「プリ連続撮影」機能を搭載し、JPEG/RAW/HEIF において切り出し作業なしで記録可能。

### 3) 新開発のフルサイズ裏面照射積層 CMOS センサーや「カメラ内アップスケーリング」機能などによる高画質の実現

- 高速性能と高感度性能を両立した新開発の有効画素数最大約 2420 万画素フルサイズ裏面照射積層 CMOS センサーを採用し、常用 ISO 感度 100～102400（静止画撮影時）をカバーすることで幅広いシーンで高画質を実現。
- ボディー内 5 軸手ブレ補正機構を搭載。また、レンズ内光学式手ブレ補正機構を搭載した RF レンズでは協調制御にも対応し<sup>※1</sup>、中心最大 8.5 段・周辺最大 7.5 段<sup>※2</sup>の手ブレ補正効果を発揮。さらに、広角特有の画面周辺でのブレを抑制する周辺協調制御にも対応<sup>※1</sup>。



暗い室内などにおいても高画質を実現

- 「カメラ内アップスケーリング」機能では、アプリケーションなどを介することなく、撮影した画像（JPEG/HEIF）から最大約 9600 万画素の画像をカメラ内で生成し、トリミングをしたい場合などに有効。
- RAW で撮影した静止画をカメラ内で処理し、ノイズを低減した高画質な画像をカメラ内で生成する「ニューラルネットワークノイズ低減」機能を搭載。

※1. 対応するレンズについては、キヤノン公式 WEB サイトをご覧ください。

※2. CIPA2024 規格準拠。Yaw/Pitch/Roll 補正性能。「RF24-105mm F2.8 L IS USM Z」（2023 年 12 月発売）使用、焦点距離 105mm 時。

#### 4) プロの映像撮影を支える操作性と通信機能

- 「EOS-1D X」シリーズと同等の防じん・防滴性能<sup>※1</sup>を備え、マグネシウム合金を外装に採用することで高い堅牢性を実現。
- 「EOS-1D X Mark III」および「EOS R3」と共通の大容量リチウムイオンバッテリー「LP-E19<sup>※2</sup>」を採用し、静止画撮影可能枚数約 1,330 枚<sup>※3</sup>を達成。
- 「EOS-1D X Mark III」比約 78%となる約 1,115g（CIPA 基準）の軽量設計と操作性を両立。
- EOS シリーズではじめて IEEE802.11ax 規格相当に対応し、高速な無線通信が可能。更に 6GHz（インフラストラクチャーのみ）に対応することで広い周波数帯が使用可能となり、快適な通信性能を実現。
- EOS シリーズではじめて高速な有線 LAN 規格である 2.5GBase-T に対応し、安定した接続環境で大容量の静止画や動画を送信することが可能。
- 新アプリケーション「Content Transfer Professional（有償）<sup>※4</sup>」では、静止画・動画を 5G/LTE 対応のスマートフォン経由で場所を選ばずカメラ本体からファイルを受信し、FTP サーバーへ送信することや、スマートフォンでのタグ付けが可能。



厳しい撮影環境にも耐えうる防じん・防滴性能  
（図はイメージです。）

- ※1. 防じん・防滴性能を発揮させるため、電池室やカードスロットカバー、端子カバーなどの開閉部をしっかり閉じ、アクセサリシューキャップを装着する必要があります。カメラは防じん・防滴に配慮した構造になっていますが、砂塵や水滴などの侵入を完全に防ぐことはできません。
- ※2. LP-E4/LP-E4N は使用できません。
- ※3. モニター撮影、省電力優先設定、新品・フル充電の LP-E19 使用時。23°C の環境下。CIPA 規格準拠。
- ※4. 対応 OS は、iOS/Android。対応バージョンについては、キヤノン公式 WEB サイトをご覧ください。

#### 5) 映像制作機器「CINEMA EOS SYSTEM」で培った多彩な撮影性能や親和性の高い画作りを実現

- フルサイズ画角での 6K/60P の RAW 動画や、4K/120P の MP4 動画記録をカメラ内部記録で実現。
- 動画撮影中の静止画記録<sup>※1</sup>にも対応し、動画撮影を停止せずに最高約 10 コマ/秒<sup>※2</sup>の連続撮影を可能とすることで、機材の簡略化など業務効率の向上に寄与。
- 動画撮影時常用 ISO32000 を達成し、暗いシーンでの撮影にも対応。ノイズリダクションのアルゴリズムの改善により「EOS R3」よりもさらに高感度撮影時のノイズを低減。
- 4K/60P の MP4 動画を Slot1 へ、ファイルサイズの軽い Proxy 動画を Slot2 へ同時に記録することが可能<sup>※3</sup>。軽量の Proxy 動画を使用することで、PC への送付や編集を効率化。
- 「CINEMA EOS SYSTEM」と共通の仕様として、用途に応じて画質調整が可能な「カスタムピクチャー」や「Canon Log 3」と比較し、中間から暗部の階調性が高い「Canon Log 2」を搭載し撮影用途に応じた最適な設定を選択することが可能。
- デジタルシネマカメラ「EOS C400」（2024 年 9 月発売予定）と共通のファイルシステム XF-HEVC S/XF-AVC S を採用することで、ワークフローを共通化し、編集作業を効率化。
- カメラから離れた位置でも動画の記録状況を把握することができるタリランプを搭載。
- 動画撮影ボタンを押す 3 秒前もしくは 5 秒前から映像を記録することが可能な「プレ記録<sup>※4</sup>」機能を搭載。



本格的な映像制作にも対応

- ※1. フル HD /60P、フル HD/30P 動画撮影時対応。静止画（JPEG）は約 1780 万画素（アスペクト比 16 : 9、5616x3168）で撮影可能。カード 1 に動画、カード 2 に静止画が記録されます。
- ※2. システム周波数 59.94Hz NTSC 時。50.00Hz PAL 設定の場合、最高約 8.3 コマ/秒。
- ※3. Slot1 記録設定が 100fps 以上の場合、Proxy 記録は不可。
- ※4. RAW 動画撮影、ハイフレームレート動画撮影時はプレ記録不可。プレ記録使用時は温度が上昇しやすくなりますので、長時間撮影する場合にはフレームレートを下げるか、フル HD での撮影を推奨します。



## 〈主なアクセサリ（別売り）〉

### 〈「EOS R シリーズ」共通アクセサリ〉

#### ■レインカバー-ERC-R5L／ERC-R5S

- 純正ならではのフィット感で雨天時にも安心な撮影を実現。
- 2つのサイズ展開により、カメラに合わせたレインカバーの装着が可能。

### 〈“EOS R1”専用アクセサリ〉

#### ■アイカップ ER-iE

- 逆光時や、サイドからの余分な光の侵入を防ぎ、視線入力の精度や視認性向上を支援。
- アイカップ部が 360°レボルビング可能で、縦位置撮影時にも対応。



レインカバー-ERC-R5L



アイカップ ER-iE

製品名	希望小売価格	発売日
レインカバー-ERC-R5L	オープン価格	2024 年 8 月下旬
レインカバー-ERC-R5S		2024 年 8 月下旬
アイカップ ER-iE		2024 年 11 月

## 〈商品構成（キット内容）〉

名称	内容
EOS R1・ボディ	EOS R1

## 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://personal.canon.jp/product/camera/eos/r1>

## 〈来歴記録への対応について〉

“EOS R1”と「EOS R5 Mark II」は、2025 年以降に C2PA フォーマットの来歴記録機能に対応する予定です。

※ 2025 年以降に公開予定のファームウェアアップデートが必要です。

\* IOS は、米国およびその他の国々における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

\* Android は Google LLC の商標です。

\* 記載されている会社名、製品・サービス名は一般に各社の商標または、登録商標です。